

雨水のゆくえ

雨水のゆくえ

雨がふった後、校庭のあちこちに水たまりができています。水たまりは、どんなところにできるのでしょう。

地面に流れる雨水は、高いところから低いところへと流れていきます。そのため、水たまりは、まわりより低くなったところにできやすいのです。

また、同じ雨がふっても、すぐに水がしみこむ場所と、なかなかしみこまない場所があります。そのちがいは、土のつぶの大きさにあります。

すな場のすなのように、つぶの大きい土は、つぶとつぶの間のすき間が大きいので、水がすぐにしみこみます。反対に、粘土ねんどのように、つぶの小さい土は、すき間が小さいので、水がしみこみにくく、水たまりができてやすいのです。

雨の後に、校庭を見て歩くと、地面のかたむきや土のちがいに気づくことができます。水がしみこみやすいように、すなをまいたり、みぞをほったりして、水はけをよくしている校庭もあります。

1 雨水は、どのように流れますか。

ア 低いところから高いところへ

イ 高いところから低いところへ

ウ いつも東から西へ

2 水がしみこむ速さのちがいは、土の何の大きさにありますか。



3 つぶの大きい土に、水がすぐにしみこむのは、どうしてですか。



4 水たまりができてやすいのは、どんなところですか。

ア まわりより高く、つぶの大きい土のところ

イ まわりより低く、つぶの小さい土のところ

ウ すな場の中